

## 7月のブルーベリー農園（東広島市豊栄町）

梅雨入りが遅くて、梅雨明けも遅くて、太陽の出る時間が少なくて、その結果ブルーベリーの味は甘味が少なくて7月27日（土）の森の工房AMAの第16回ブルーベリーまつり

に向けて摘んだ農園の7ブルーベリーも例年より少ない納品となってしまった。それでもまつりは暑い中2年ぶりに開催され約1300名の地域の皆さんと利用者家族の皆さんで賑わった。以下は7月の農園と周辺の夏の花、夏の稲田、夏の昆虫の抜け殻、夏のブルーベリーの摘みとり、出会いと別れなどの様子。



7月6日（土）。近所のため池に薄曇りの空を水面に映して咲くコウホネ。



7月22日（月）。農園に行く途中の段状に連なる青い稲田とヒメジョオンの花。



7月13日（土）。ヤブカンゾウ。



7月15日（月）。トンボの抜け殻。



7月21日（日）。カクトラノオ



7月28日（日）。セミの抜け殻。



7月21日（日）。摘み取りする人たちを横目に防草シート  
の列の間の敷いていない場所の草刈りを行う。



7月28日（日）。自分たちで摘み取ったブルーベリーで  
作ったジュースで休憩。来日のお別れのいい思い出にな  
ればいいのだが。



7月28日（日）。日独平和フォーラムから派遣された広  
島市に来ているドイツの若者6名がブルーベリーの摘み  
とり援農に参加。スマホで記念撮影の合間の談笑。みん  
な背が高い。8月には1年間のボランティア活動を終えて  
帰国する。真ん中のTシャツ姿が安芸の郷でボランティ  
ア活動をしているレヴィンさん。



7月29日（月）。安芸の郷でボランティア活動をする  
「フレンドベリー」の皆さんプラス友達の摘みとり援  
農。おかげで安芸の郷で30日から販売が始まるのでブル  
ーベリーの実が2日間でたくさん確保できた。無事納品  
できた。8月が摘みとりの最盛期で日照時間が増えるの  
で味も甘くなる。

2019年7月31日  
社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良